

(3) 1997.3.5
日本赤軍に対する「テロリスト」非難をやめて下さい。日本のマスコミは、七十二年のリッダ闘争をしてきましたが、岡本同志の拘束が不明となつた今になつて、「岡本はア崩壊後、世界は米帝の一

日本赤軍に対する「テロリスト」非難をやめて下さい。日本のマスコミは、七十二年のリッダ闘争をしてきましたが、岡本同志の拘束が不明となつた今になつて、「岡本はア崩壊後、世界は米帝の一

日本赤軍に対する「テロリスト」非難をやめて下さい。日本のマスコミは、七十二年のリッダ闘争をしてきましたが、岡本同志の拘束が不明となつた今になつて、「岡本はア崩壊後、世界は米帝の一

日本政府は、二・一七に「レバノンにおいて日本赤軍幹部が五人拘束された、日本への強制送還になりました。しかし、二・二現在において、レバノン政府は拘束自体を正式に認めておらず、送還の話もありません。にもかかわらず、日本政府と日本のマスコミは、日本赤軍との関係すら証明されていらない合法的市民であるレバノン人と日本人の四人までを「容疑者」と。また、仮に彼女たちが日本赤軍と関係があったとして、何の罪があるのか。あなた達は、パレスチナ人民、レバノン人民を皆、「容疑者」扱いにするのです。

以下は、仮に、日本政府の発表通りに岡本同志以下五名が拘束されているのならば、で述べます。

〔1〕
日本赤軍に対する「テロリスト」非難をやめて下さい。日本のマスコミは、七十二年のリッダ闘争をしてきましたが、岡本同志の拘束が不明となつた今になつて、「岡本はア崩壊後、世界は米帝の一

日本赤軍 沢田由記子
吉村和江
丸岡修

敗れても滅びず —獄中から声明します



日本赤軍 沢田由記子
吉村和江
丸岡修

日本政府は、二・一七に「レバノンにおいて日本赤軍幹部が五人拘束された、日本への強制送還になりました。しかし、二・二現在において、レバノン政府は拘束自体を正式に認めておらず、送還の

ラブでは特別な存在であり、英雄を日本に売り渡さない」と報じています。

リッダ闘争で巻き添えになってしまったし、二・二現在において、レバノン政府は拘束自体を正式に認めておらず、送還の

ラブでは特別な存在であり、英雄を日本に売り渡さない」と報じています。

日本赤軍は敗れても滅

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍は敗れても滅ぼされ、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

赤軍がアラブ人民・レバノン人民・パレスチナ人民との絆を失つたことを示していません。日本赤軍とアラブ人民との友好関係は不変です。

日本政府は岡本同志を拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

はやらない、といふもの

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

日本赤軍はアラブの人容疑で不当手配し、日本への強制送還を求めた。しかし、それは拉致に一方的に拘束

緊急支援のお願い 日本赤軍 レバノン問題に関して

日本赤軍は、日本赤軍

獄中から声明します！その2-1997.5.30 5.30リッダ闘争25周年にあたって！

日本赤軍 深田由記子・吉村和江・丸岡修

「あす、僕らは、この辺境の基地を出発します。羊の群れが出撃する我々を送るでしょう。ずっと仲良くしていた子どもたちが手を振ってくれるでしょう。彼らが、僕らのあとを継いで銃を握ること、世界中の飢えた子どもたちが我々のあとにいることを僕らは確信しています」

(両親宛奥平剛士同志の遺書より)

1. リッダ闘争の意義

闘争から25年後の今、2・15弾圧によって岡本同志たち5名がレバノン治安当局に拘束されていますが、日米両帝国主義の恩恵とは逆に、レバノン政府は完全白紙化まで一時は検討しました。日米両国による圧力の結果、拘束の事実公表に追い込まれましたが、即送還を阻止した時点で、政治的には私たちが勝ちました(たとえ、今後送還されようとも)。

4名の獄中インタビュー時の写真を掲載したレバノン紙は、見出で5人を「ヤバニイイン・インビタール(英雄的日本人たち)」と呼んでいます。この例のように、日本赤軍がこの25年間に築いてきた闘いは、アラブ人民に広く、強く支持されています。180人以上もボランティア弁護士が現れ、レバノン進歩勢力各派、パレスチナ解放勢力各派も救援に乗り出しています。血で結ばれた私たち日本赤軍とアラブ人民の絆は、帝国主義の介入で揺らぐものではありません。

リッダ闘争の意義は、第一に、自己犠牲的闘争実践をもって国際連帯を切り拓いたことにありました。当時、ベトナム解放戦争を先頭として帝国主義に反対する闘いは、第三世界を中心に大きく前進していました。私たちはプロレタリア国際主義の実践として、パレスチナ革命勢力との共同武装闘争を開拓したのです。

意義の第二は、「同志殺害」という連合赤軍の重大な誤りに対するアンチテーゼとしてありました。同志たちは、連合赤軍の誤りの克服を、自分たちの命を犠牲にした闘いを示すことによって果たそうとしました。革命の正しい目標と闘い方を示すために。(非シオニスト一般旅行客の巻き添え犠牲者には謝罪します。)

2. 国際主義と

民族主義の確立

私たちの言う国際主義は、人民の国際連帯であって、敵の描く「国際テロ」ではなくありません。現在、帝国主義陣営は「グローバリズムの時代」と称し、米国中心の「先進」資本主義諸国に都合の良い政治・経済体制への世界的再編を進めています。社会主義と民族独立が前進した第二次世界大戦後の世界で、帝国主義陣営は、帝国主義諸国間の戦争を自制せざるを得なくなり、擬制の協調によって共同の世界支配を

企み、ソ連、東欧社会主義の自滅後一気に世界再編を計ろうとしています。米帝の唱える「新世界秩序」の下、第三世界と旧社会主義諸国の広大な市場と安価な労働力を確保し、また地球の限られた資源を独占するための帝国主義にとっての国際化が、「グローバリズム」の本質です。そこでは民族と人民の主権が侵害され、少数の富める国がますます富み、多数の貧しい国がますます貧しくなる世界しかありません。

帝国主義によるグローバル化に対して、各民族、各国人民は主権の確立によって対抗しなければなりません。しかし、帝国主義諸国が圧倒的な軍事的、経済的力を保持している状況では、各民族、各国人民が個別に対峙していたのでは勝つことは不可能です。各民族、各国人民の様々な状況、条件に応じた、武装闘争に限らず平和的手段を含めた各種各様の闘いを相互に支援する国際連帯が必要になっています。これが私たちの言う国際主義であり、人民の連帯です。

3. 2・15弾圧

予審においてレバノンの高等裁判所は、5人を「政治犯」と認定し、6月から一審の公判が始まります。他方、日本政府は、執行猶予付判決にさせての日本への早期送還をレバノン政府に求めています。最悪、岡本同志の引き渡しを断念しても残る4名は引き渡せる妥協案も用意しているでしょう。私たちはレバノン政府に対して、日本側のいかなる要求にも応じないことを強く求めます。

日本の治安当局は、2・15弾圧以後、「日本赤軍は、非公然組織・人民革命党を91年に結成し、国内での蜂起を用意している。国内に400名の支援者」などとい

う情報を流し、あたかも日本赤軍が今にも武装蜂起しかねないという雰囲気を作りました。それを受けて2月下旬に、元内閣安全保障室長の佐々淳行は、テレビなどで「赤軍シンバ、支援者などが数百名おり、彼らを取り締まる法律が必要だ」と唱えていました。日本の治安当局は破防法を上回る治安弾圧立法を企図しています。これを許してはなりません。

4. さいごに

ペルー・フジモリ強権独裁政権は、日本大使公邸占拠闘争を闘ったM.R.T.Aの戦士14名を虐殺しました。まず戦士たちを哀悼し、フジモリ政権を強く弾劾します。この虐殺と2・15弾圧は連関しています。帝国主義陣営は共同して、帝国主義に反対して闘う世界中の革命運動と民族解放運動、そしてそれらを支援する諸国を分断して、個別に擊破する戦略的攻勢をかけています。「テロリスト」「テロ支援国家」などの汚名をかぶせ、帝国主義に反対する諸勢力の一掃を狙っています。米国などの帝国主義、フジモリ政権のような強権独裁国家こそが、テロリズムの信奉者です。私たちは屈しません。

私たちは、自國人民に依拠した自力更生の闘いを強め、人民の国際連帯を強め、帝国主義を地球上から放逐するまで闘い抜きます。私たちは真的自由と民主主義を求め、平和を愛するが故に闘っています。私たちは、真的共産主義者であるが故に、民主主義者であり平和主義者です。

人民の自治と共生を求めて!



情況

七月号

[第二期] 通巻 第七十五号

六月十七日発売

定価 1,230円(本体1,171円)

定期購読 6回7,000円・12回14,000円

浅田光輝 激動の時代とその裏面

星野智・熊野純彦・小倉由美子

太郎やすいなか・藤田友吉

グラムシと哲学

アーティスト・藤岡信

勝東大教授ら右派の「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書攻撃は、我々日本人として恥ずべきことあります。強制連行などの歴史真実の追及や侵略犯罪の検証や学習こそが、反動的な教科



◆ その侵略戦争の最中に、植民地朝鮮から七十万以上の人を強制連行し、強制労働に駆り出し、また、多くの女性を殺戮し、その土地を焼き尽くした。

◆ その侵略戦争の最中に、植民地朝鮮から七十万以上の人を強制連行し、強制労働に駆り出し、また、多くの女性を殺戮し、その土地を焼き尽くした。

◆ その侵略戦争の最中に、植民地朝鮮から七十万以上の人を強制連行し、強制労働に駆り出し、また、多くの女性を殺戮し、その土地を焼き尽くした。

◆ 近代天皇制は一八六〇年以降、新たに再編された国民統合の装置である。その天皇制の強化の過程で、アイヌモシリ、ウチナー(沖縄)を侵略、植民地化していった。一八九四年の日清戦争から始まる日本の朝鮮への侵略

ナード(沖縄)を侵略、植民地化していった。一八

○

年、閏僚の侵略否定の

民地化と侵略戦争の犯罪

の歴史的事実や責任をあ

いまいにしてはいけな

い。しかし、敗戦から五

〇年、閏僚の侵略否定の

虚言や、新たな『皇國史

觀』とも言うべき『自由

主義史觀』の登場など、

い。しかし、敗戦から五

〇年、閏僚の侵略否定の

虚言や、新たな『皇國史